

エルサレムへの嘆き①

ルカの福音書19章37-46節

2013,3,23 HKJCF

1

概観

序) イエス様の入城 ① ロバの子 ② 預言の成就 ③ 謙りと従順

I 弟子たちの讃美

V37-40

II エルサレムへの嘆き

V41-44

III 宮きよめ

V45-46

適用)

2

I 弟子たちの讃美

1、弟子たちの讃美

2、讃美の言

① み使いの讃美 ルカ2:14

② ルカの緊張感

3、石が叫ぶ ハバクク2:9-11

① 2重の意味 1) 強調表現 2) 神殿崩壊

② 私たちの信仰の宣言 「イエスは主」

⇒ イエスを主とする信仰と世界の命運

3

II エルサレムへの嘆き

1、真の平和

平和→崩壊→真の平和

2、滅亡の日

① 旧約預言の成就 エレミヤ6:6-8

② 主ご自身の預言 ヨハネ2:19-22

③ 主のみ思い ルカ13:31-35

3、霊的覚醒の必要

⇒ 目を覚まし王を迎える信仰 ルカ19:27

4

III 宮きよめ

1、宮きよめの祭 (ハヌカー:ヨハネ10:22)

① セレウコス朝 ② 神殿にゼウス像

③ マカベアの反乱→神殿崇拜

2、主の宮きよめ

① 宗教指導者の墮落と商業主義

② 真の意味(象徴行為と預言)

1) 律法の成就 2) 真の神殿としての主

3) 神殿の崩壊 ヨハネ2:19-22 (黙21:22

I コリ3:16-17) ⇒ 指導者の決定的な反発

5

適用

1、イエス様の宮きよめはイエス様が神殿であり、祭儀律法は成就し、破棄されることを象徴する行為による預言だった

2、私たちはこの信仰に立って「イエスは主」であることを宣言しよう この信仰に世界の命運がかかっている

3、イエスが主であり、私たちも聖霊の宮であることを覚えて今週の歩みを進めよう

6